いわき市渡辺町調査概要

2014 年 12 月 6 日中間報告感想

大森淳平

渡辺町は現在 7 つの集落(上釜戸、中釜戸、松小屋、田部、洞、昼野、泉田)に分かれている。以前は渡辺村という名称であったが 1966（昭和 41）年 10 月 1 日の大合併を経て、いわき市渡辺町に名称が変わった。渡辺町は藩政時代、湯長谷藩と泉藩に分かれていて、上釜戸・中釜戸が湯長谷藩、松小屋・田部・洞・昼野・泉田が泉藩の領地だった。渡辺町は藩政時代から農業を生業としており、地形的には渡辺町の西部は山岳地帯、東部は平地が多いのが特徴である。

調査では、住民の方々のご協力のもとに、年中行事や奴行道（7 年に 1 度、行われていた祭。現在は行われていない）など、興味深い話をうかがった。住民のお宅を訪問させていただき、渡辺町の生活文化を垣間見ることもできた。上釜戸の K 氏宅の倉庫には井戸(写真 1)があり、井戸のふたを開けてもらうとその深さに驚く。また水神様(写真 2)や氏神様を祀る習慣があり、町民の方々の昔の遊び場は主に山や川であったそうだ。渡辺町での生活は山や川などの自然との共存が切り離せないものであり、実際に渡辺町を訪れてみると辺りが一面緑色の田園風景で、自然豊かな地域であることを肌で感じることができる。

他方で、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被害、度重なる余震、福島原子力発電所の事故から 2 年以上が過ぎ、復興に向けて前進する渡辺町という、もう一つの顔があった。いわき市常磐藤原町にあるハワイアンズは震災発生後、約 1 年間開園することができなかった。しかし現在は震災前のように客足も戻っており、かつての活気を取り戻している。駐車場は車でいっぱいになっており、震災後ハワイアンズのフラガールが精力的に TV に出て復興活動をしていたことを思うと、あの時の努力が実を結んだのだろうと感じる。

車を走らせていると、原発周辺から避難してきた大熊町の方たちの仮設住宅が建ち並んでいた。最寄り駅である泉駅近くでも富岡町の仮設住宅を目にした。これが現実であり、復興に向けてまだ道半ばであることも痛感させられた。